

①

平成28年度

# 志免町炭鉱かるた普及事業

旧志免鉱業所の歴史を学ぶ会

×

志免町 社会教育課

## 事業の概要

- ① 「志免町炭鋤かるた」を活用した普及啓発  
公民館、老人会、いきいきサロン、学童保育、高齢者  
デイサービス等での小規模かるた大会を開催
- ② 第3回志免町炭鋤かるた大会の開催  
平成29年2月4日 シーメイトホール  
参加者165名

※ 「志免町炭鋤かるた」は、平成25年度志免町協働事業にて製作。

目的：炭鉱の歴史を理解し、愛着を持つ町民を増やす  
対象：子どもから高齢者まで  
手段：かるたを使って遊びながら学ぶ

## 《役割分担》

### 社会教育課

- 広報しめ、町HPを使った広報
- 大会運営に関する団体への助言
- 行政内部での事業周知と協力要請
- 大会当日の運営補助
- 参加者募集の受付

### 旧志免鉱業所の歴史を学ぶ会

- 事業の企画立案
- 会場の確保、手続き
- 広報物（チラシ、パンフレット）の作成
- 大会当日の運営

# 事業が生まれたきっかけ

- 志免町は炭鉱の町として、日本の近代発展に貢献してきたが、それを知る町民が少なくなった。

## 社会教育課

住民のアイデアや行動力に期待！

学校教育だけでは、十分に郷土の歴史を伝えきれない

## 旧志免鉱業所の歴史を学ぶ会

楽しく親しみを持って歴史を学ぶための工夫が必要！

社会教育課や専門家の知識を借りたい

町や教育委員会と連携して、町民に広く呼びかけたい！



# 事業の様子



## 成果

事業を行ったことで「炭鉱の歴史を理解し、愛着を持つ町民を増やす」はどう変わった？

- かるた大会の開催が「大会で勝ちたい！」という動機につながり、学習意欲が向上した。
- 1年に1回の“炭鉱かるた大会”が定着し、町民が炭鉱の歴史に触れることが習慣化しつつある。

⇒ 町民が歴史を理解する環境づくりに寄与。

## 参加者・関係者の意見

- 参加者から

「大会に参加するのが楽しい！これまで炭鉱の歴史を知らなかったが、もっと知りたいと思った。」

- 小学校の先生から

「かるた大会に向けて、子どもたちも熱心に練習していた。」

- 会のメンバーから

「かるたを製作することで、会員の勉強になった。

子どもから高齢者まで、こんなに興味を持ってくれるとは想像以上だった。やってよかった！」



協働事業をやってみてわかったこと！

## 担当課との意見のぶつかり合いもあった

⇒ 読み札の言葉づくりでは、最終的に会員も社会教育課担当者も顔をそろえて議論しつくした。

⇒ 委託や助成と違い、対等な立場で意見を言い合うのが協働だ。プレッシャーはあったが、互いに納得し、3年間一緒に事業ができた。

## 団体の苦手な部分を補完できた

⇒ 申込み・問合せ対応を担当課が引き受けてくれた。苦手・得意を出し合える役割分担を。